

# 災救通信

## 災救隊 (北海道教区隊) 初の リモート会議開催

今年、コロナ、コロナで明け暮れそうである。本部祭典をはじめ各教会の月次祭は様々な感染予防対策がなされ、何とか真実の祈りを受け取っていただき御守護を頂戴したいと、皆必死でつとめてきた一年である。むろん、お道の者ばかりではなく、全世界の人々が、この一年を懸命に暮らしてきた。

全教の様々な活動、婦人会、青年会総会、こどもおぢばがえり、学生生徒修養会等々すべてが中止となった。災救隊も平時訓練、本部白川整備ひのきしん等が実施出来なかった。しかし、こうした状況でも自然災害などの発生は待たないである。

現に今年も多くの災害が発生した。特に『令和2年7月豪雨』は災害現場も広く、熊本県を中心にした九州の各地、岐阜や長野更に静岡、山形にも被害をもたらした。死者は82名に及んだ。各地では自衛隊をはじめ救助救援活動が展開され、早速、教区災救隊もコロナ禍の状況下、感染対策を徹底して活動(教区隊長会議報告掲載)を行った。

恒例開催の全道支部隊長会議も、こうしたことからリモートで初めて行い、正にコロナ禍での救援活動や予防活動についての確認をした。

令和2年  
12月1日  
第20号

発行

天理教  
災害救援  
ひのきしん隊  
北海道教区隊

逐次発行



リモート会議イメージ。

令和2年11月2日 15時からリモート会議を開催。代理を含む26名が参加した。(以下、会議の議事録として掲載)

### 隊長あいさつ

先の本部長の大祭に車で上和した。中和大教会の駐車場をお借りした際、初めてお会いした役員先生に「札幌から来られたんですか。それなら珍しい物を見せてあげる。」と、ナンバープレートを見て声を掛けられた。自宅へ招かれ、教祖にまつわる物に触れさせてもらい大感激を

**宣誓**  
我々は天理教災害救援ひのきしん隊員であります。一列兄弟の自覚に立ち、真実をもって救援活動にあたります。

した。その感激のままおぢばへ向かい、11月から自身の筋肉の身上御守護を願って修養科を志願した、今井教区副隊長に面会し、直ぐさまおさづけを取り次がせていただいた。共に感激し、おぢばの理、教祖存命の理を強く強く感じ合った。支部隊長、教区スタッフの皆様も互いに信仰を高め合い、災害の少ない世に向かうよう、地域ひのきしん活動の率先実施に一層励み合いたい。

### 教区スタッフ新役職ならび

#### 新支部隊長紹介

教区スタッフの新体制として次の役職が発表された。

教区隊長補 (2名)

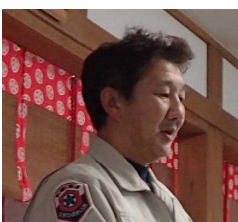
今井浩一

佐藤修一

教区副隊長 (2名)

菅野智司

寺澤信彦



教区副隊長補 主任 (3名)  
今里秀道



高坂正道



野崎敏治



支部新隊長 (2名)

旭川支部隊 雨龍 北旭 松下裕紀隊長  
日高支部隊 洲本 臆勇 吉田正徳隊長

災救隊結成50周年記念大会について

予定立教184年(令和3年)6月27日

※コロナ感染状況により未定

8時半神殿にておつとめ 10時記念式典

ヘルメット、隊服(天理大学袖之内第一体育館)

(立教184年2月教区隊長会議にて正式発表)

実動を見据えた隊の充実を大会までの活動方

針とし、訓練の実施と充実、

隊員の自覚と増員、

ブロック内の連携強化を具体的実践項目としている。

災害に備えてのお願いと

主な本部ガイドラインを受けて

北海道教区隊では今年の状態を鑑み、有事に備え各支部隊にも、マスク、消毒液をストックいただくようお願いしている。更に使い捨ての薄手ビニール手袋等も準備いただきたい。また、全国の災害出動の様子は本部よりの連絡を受けて、随時庶務よりラインやメール等で連絡している。

主な本部ガイドラインを受けて(注意事項)

- ・ 発災時の現地調査は現地のナンバープレート車両で行くことが望ましい。
- ・ 緊急事態宣言中は出動を見合わせる。
- ・ 救援活動により感染拡大につながる可能性がある。また、隊として広域に活動出来ない。
- ・ 活動により事実とは異なる風評被害をうける可能性がある。
- ・ 感染が確認されたら各所へ連絡し、保健所、行政、医療機関の指示に従う。
- ・ 出動時、新型コロナウイルス感染症に対応したボランティア保険に加入。
- ・ 旅行傷害保険加入も考慮いただきたい。

本部の主なガイドラインを受けて、教区・支部での訓練も同様の配慮が必要。作業や活動は勿論のこと、特に食事、宿泊が伴う場合は特段の配慮が必要。

本部教区隊長会議

10月25日秋季大祭の前日、南右二棟多目的ホールにて、教区隊長会議が行われた。始めに田中本部長より、「いよいよ来年隊結成50周年を迎えるが、コロナ等の状況を見極め、来年2月の隊長会議に詳細を発表し、ポスターなどを配布したい。この機会に災救隊の役割を見つめ直し、体制を整えることが大切である。まずは地域ひのきしん活動の核となり、先頭に立つて務めさせてもらいたい。災害時の実動はもとより、成人の機会、場として、50周年をつとめたい」と挨拶があった。



田中勇文本部長。

続いて、今年の災害出動、活動について岸本副本部長より次のように報告があった。

●令和2年7月豪雨

7月15日～29日  
本部隊はじめ九州の全教区隊1次～5次  
宿营地 熊本県相良村柳瀬構造改善セン

ター 出勤人員延べ947名

●熊本教区隊独自

7月7日～13日 延べ79名  
8月7日～14日 延べ77名  
9月11日～14日 延べ38名

●岐阜教区隊独自

7月15日～20日 延べ133名

●大分教区隊独自

7月15日～16日 延べ51名

●山口教区隊独自

7月18日 15名

●鳥根教区隊独自

7月19日 7名

●愛媛教区隊独自

7月28日～30日 延べ98名

●山形教区隊独自

8月7日 8名

更に続いて『隊の充実を目指して』栃木教区隊、新潟教区隊より発表があった。栃木教区隊矢野雅春隊長は、昨年10月12日の大雨災害をうけ、どのようにに救援活動を行ったらよいか相談を重ねた。本部隊に出動要請をし教区で受け入れ体制が取れるかなど不安もあったが、全支部、教区婦人会の大きな協力を得て、4次にわたる期間を務めることが出来大きな経験をさせてもらった。結果、教区、支部それぞれの隊が充実し、地域のつながりも深くなった。特に災害時のボランティアアセンダーでのつながりは基より社会福祉協議会の方々の結束は固いものとなった。フェースブックで教区災救援隊の活

動を紹介している。



栃木矢野隊長。

また、新潟教区隊吉澤清人隊長からは、平成18、

19年の新潟豪雨、地震を受け改めての組織再編がなされた。若手スタッフは経験不足であったが、現場では旧スタッフが指導にあたり、体制作りが一層進んだ。その後、県のボランティア調整会議に宗教団体として初めて天理教、真如苑が加盟した。そうしたこともあり県の予算をこうした加盟団体に分配される事となり、無線機や災害物品の購入、研修会開催費に活用出来ている。有難いことに毎年県から50万円×3年間助成され、4年目は無い。また次の年から助成となる。教区予算が大変少ない中、大いに助かっている。そもそもは、県や市町村の他団体と交流することで、このような結果を得ている。と発表があった。



新潟吉澤隊長。

●令和3年11月  
白川整備ひのきしん活動

教区隊長会議の終わりに、来年11月26日、27日に実施される、白川整備ひのきしんの当番教区として北海道教区も庶務より発表され、会議を終了した。

本部白川整備

ひのきしん当番支部

・函館・八雲・小樽

・日高・富良野・紋別

右の6支部が当番となっておりますので、支部から1名参加お願いします。(状況により変更中止あり得ます)

室蘭支部

災害対策委員会報告

有珠山を有する室蘭支部(岡崎秀人支部長)では、平成12年噴火後も行政や関係機関との連携を密にしたいと、8月3日支部災害対策委員会を新たに立ち上げた。この日は教区災救援隊からも協議会に出席をし、教区、支部の連携や確認事項について話し合いが持たれた。また、午後からは一同、洞爺湖町に向き、真野敏春町長を訪ね、有事の際やそれに備えた活動など、協力体制を確認し合った。その後も支部では経



続いて会議を行い、第2回目は9月30日、洞爺湖町環境課との話し合い後、支部としての在り方を確認した。有事、初動体制、町や教区隊との連絡などを相談し、意識付けとして毎月会議を行い、町や教区災救隊に報告することとなった。

第3回目は10月30日、今後の町との協議日を調整し、ハザードマップをもらって、噴火予兆など避難所開設協力や物資輸送などの協力体制などを伝える。また、町防災訓練に参加し、支部としての動きをシュミレーションしたい。また、有事に支部活動拠点をどうするか、様々な問題点を確認した。

今後もしこうした災害対策委員会の協議事項を町へ伝え、協議を重ねて有事に備えることを確認し合った。



本輪西分教会にて災害対策会議。



周囲を確認して伐採作業。



免許保有者が操作して作業を。

空知支部ひのきしん部では9月17日、18日と支部内教会の高枝払いを行った。コロナ禍であり、出来るだけ少人数を心がけ、高所作業車をレンタルして安全対策を講じて作業にあたった。

# 空知支部活動報告

立教184年 **6月27日** 日

**内容** 午前8時30分 おつとめ(東礼拝場)  
午前10時 記念式典(天理大学柚之内第一体育館)

**対象** 全隊員 **服装** 隊服、ヘルメット **参加御供** 一人500円

**災救隊50周年ポスター(予定)**